

南九州市のまちおこし活動で活躍されている

NPO 法人 **えい** 穎娃おこそ会
かとう じゆん 加藤 潤 副理事長



埼玉県出身。モービル石油(株)などに勤務後、南九州市穎娃町へIターン移住。穎娃おこそ会を通じ、地域と行政と観光をつなぐ活動に取り組む。近年はDIYで地域の取り組みを支援する「コミュニティ大工」として空き家再生に注力。優良事例表彰や地域づくり表彰など受賞歴多数。

私は施主や地域の人たちとコミュニケーションを取りながら家を作る「コミュニティ大工」として、穎娃おこそ会のメンバーとともに空き家の再生に取り組んでおり、現在までに穎娃町内で計11軒の空き家再生を手掛けてきました。

最初の空き家再生は失敗から始まりましたが、その後に築100年の店舗を無償で借り受け、残されていた家財道具の整理から始まり、改修にあてる資金の調達、建築学科のある第一工業大学と連携した改修作業など幅広い取り組みや支援を得ながら、1号目となる物件を再生することができました。

1号物件を地域の交流拠点としたことで、もともと地域にニーズとしてあったヨガ体験教室など持ち込み型のイベントが増えることに。その後、穎娃と関わりを持った来訪者のニーズに合わせる形で、空き家をゲストハウスやシェアハウス、シェアオフィス、移住者の住居などに再生。これらの取り組みにより、諦めていた商店街に「期待感」を創出することができました。

私が穎娃に移住したとき、不動産屋に行っても賃貸住宅がありませんでした。あるのは放置された空き家ばかり。空き家をお荷物的な地域課題として捉えるのか、上手く使って仕事や暮らしを生み出す、地域に必要な資源と捉えるかで変わります。確かに、空き家は安いですが誰でも問題なく扱えるものではなく、事業者も苦勞が多いわりに儲からない存在であり、また、使用者側にも家主に責任を求めないなどある程度のおおらかさが求められる特別な物件です。そうした空き家だからこそ、私たちのような業界常識に捉われない素人目線や「だったら自分でやろう」というDIY精神で再生に取り組めたのだと思います。空き家再生の手法が共有され、鹿屋市にも波及することを願っています。

地域おこし協力隊
菅原地域づくり
マネージャー
もとむら さき 元村 早希 隊員



- 1 ユクサおおすみ海の学校で販売中の菅原神社の合格鉛筆と御朱印
- 2 鹿屋体育大学の学生ボランティアと一緒に雑草取り
- 3 育てた大根で切り干し大根づくり

を借り、高齢者だけでは難しい作業を支えてもらっています。高齢化が進むと、地域内では解決しきれない課題がどうしても出てきます。そんなとき、近隣の学生や都市部の「鹿屋ファン」の存在が大きな励みになります。これからもそんなサポーターを増やしていきたいような活動を広げていきたいです。

地域の特性を活かして

経営しており当協議会の商店街活性化グループで活動しています。吾平の商店街は正面に鶴戸神社を構え、吾平山上陵への通り道であることから、門前町として活性化が図れないかメンバーと模索しています。今年度からは、鶴戸神社と連携し節句のお祝いや神話感のある装飾を行い、雰囲気づくりの取り組みを始めました。まだまだ門前町と呼べる雰囲気ではありませんが、吾平に興味を持ってくれた人が吾平山上陵や鶴戸神社などを訪れ、その帰りに吾平の商店街を散策し、まちがにぎわっていくことを目標としています。



- 1 吾平への誇りや郷土愛を育むことを目的に吾平中学校で「吾平の神話を学ぼう」授業を実施
- 2 門前町に向けて取り組む鶴戸神社前の装飾
- 3 毎年11月下旬に行われる「吾平山上陵の四季を楽しむお茶会」



美里吾平コミュニティ協議会
すぎの たくや 杉園 卓也 委員

鹿屋市には、地域の魅力や特性を掘り起こし、知恵を結集して活性化に取り組む人たちがたくさんいます。地域にあるものに光を当て、活性化に役立つものとして見出す。そんな地域活性化に取り組む2団体に注目しました。

活性化を図る

郷土の歴史を知り 神話のまちに
美里吾平コミュニティ協議会は吾平の地域づくり団体として平成26年に設立されました。吾平には吾平山上陵という代表的な地域資源があり、隣接する公園での各種イベントや吾平山上陵を訪れた方にガイド案内を行うなど、これまでに地域活性化を促す様々な取り組みを行ってきました。吾平山上陵の美しさは多くの人に評価されています。一方で、そこにまつわる神話については神武天皇や日本建国に関する話であるにも関わらずあまり知られていないのが現状です。そこで、吾平山上陵にまつわる神話や歴史を多くの方に伝えていくため、ストーリーとしてまとめた「吾平物語」を令和3年度に作成し、今後の地域活性化や、郷土を知るツールとして活用を始めたところです。私は、吾平の商店街通りで店を



耕作放棄地を新たな交流のツールに

菅原地域づくり協議会は、平成25年に閉校した菅原小学校の校区である天神・船間・小野原の3町と、廃校を活用した宿泊施設「ユクサおおすみ海の学校」で構成され、「学び」を核にした交流によるアンチエイジングなまちづくりを目指し、4つの部会を中心に活動しています。そのうちのひとつが「観光PR部」で、菅原地区の代名詞とも言える菅原神社の新たな土産品開発に取り組んでいます。学問の神様として有名な菅原道真公を祀っていることから、学業成就の願いを込めた合格鉛筆と御朱印を製作し、今年3月からユクサおおすみ海の学校で販売を開始。地域に愛され大切に守られている菅原神社が、訪れた人にとつてずっと記憶に残る場所であってほしいと考えています。

一方「野菜づくり部」では、高齢化や人口流出で使われなくなった耕作放棄地を借り上げ、野菜づくりに取り組んでいます。作った野菜は、出荷して自主財源にするだけでなく、収穫体験を通じて地域外の人と交流するツールとしても重要な役割を果たしています。最近では、鹿屋体育大学の学生ボランティアにも力